

## 書式 2

教育研究業績書		
令和 3 年 3 月 31 日		
氏 名 永藤 清子		
研究分野	研究内容のキーワード	
生活経営、生活文化	明治・大正期の生活文化、阪神地域の生活文化	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例	平成 28 年 2 月	生活環境学科生活環境専攻 I 回生「ホスピタリティとボランティア」の授業で、阪神淡路大震災で被害が大きかった三ノ宮・生田神社周辺をフィールドワーク、東遊園地の「いのちの灯」「記念墓碑銘」を見学、震災の足跡をたどる授業を行った。
2. 作成した教科書、教材		
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. その他		
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	昭和 56 年 3 月	経済産業大臣認定 消費生活アドバイザー資格取得
2. 特許等		なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 11 年 11 月	消費生活アドバイザー試験技能審査(面接)委員として、大阪会場での二次試験・面接委員を担当実施。(平成 20 年まで)

	平成17年10月	消費生活アドバイザー制度創設 25 周年記念行事の一環として、(財) 日本産業協会会長感謝状を受賞。
4. その他	平成 28 年 2 月  平成 28 年 2 月	甲子園短期大学第 15 回卒後・キャリアアップ研修会 (第 2 回) 実施。兵庫県福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業の補助を受けて実施した。テーマ 「心と体を健康に：タクティールタッチ体験」 講師：日本タクティールタッチ協会会長、千里金蘭大学教授 山本裕子氏。本学卒業生、科目等履修生、ホームヘルパー養成研修修了生、実習施設担当者が参加。 (以降、兵庫県福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業の補助事業への申請継続中。) 兵庫県委託事業である離職者職業訓練介護福祉士養成コース (20 名) 及び保育士養成コース (10 名) に申請し受理された。3 月 22 日に面接を実施、平成 28 年 4 月から社会人学生として入学した。(現在に至る)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 祖母・母たちの娘時代－庶民生活史の一つの試み－	共	平成 11 年 8 月	クレス出版 290 頁	女性達が戦前の社会の中で娘時代をどう過ごしてきたか、本人の語りをもとに記録編集した。筆者は、「大工の娘として育つ」を分担執筆、明治 44 年埼玉県の農村に生まれた女性の娘時代から夫との出会い、結婚に至るまでの話を中心に聞き取り記録、歴史書にはない、庶民の暮らしを描いた。 湯沢雍彦編著、明治生まれの人々「大工の娘として育つ」湯沢雍彦、吉田千春、 <u>永藤清子</u> 、奥田郁子、山岸裕子、臼井和恵、高橋桂子、五十嵐あい、川崎末美、広橋ひとみ、藤田純子、吉田京子、遠山千代子、半沢明子、目黒薫、岡部千鶴、佐藤宏子、小野瀬裕子、31-39

<p>(学術論文)</p> <p>1 戦前家政(学)関係文献に関する年表—明治、大正、昭和前期—</p> <p>(査読あり)</p>	<p>共</p>	<p>平成8年</p>	<p>日本家政学会誌、Vol.47, No.5</p>	<p>明治以降の家政学関係文献についての学問的書誌学的研究。枠組みとして、常見の『家政学成立史』に依拠し、「家政学、家庭生活、生活史」「家庭経済」「家庭、家族、婚姻」「家庭科学」領域の文献を対象として現物確認できた 349 の文献について領域別に年表化した。調査した戦前家政学関係文献のほとんどに何らかの不十分な記載や誤りがあったことを確認した。倉元綾子、佐々木和子、水島かな江、永藤清子、朴木佳緒留、73—81。</p>
<p>2 ジェンダー視点から見た阪神・淡路大震災後の家族・労働・家事分担の実態</p> <p>(査読あり)</p>	<p>共</p>	<p>平成10年</p>	<p>日本家政学会誌、Vol.49、No.2</p>	<p>震災下では、仕事と家事の関わりにジェンダー差が生じた。震災下では家族間のストレスが増加、家族・親戚・地域とのつながりが変化した。父親は比較的早く職場に復帰したが母親は仕事を取っている場合でも、家庭に残る傾向が見られた。また、震災後の生活復帰のための家事の手伝いは母親と女子であることがわかり、震災下でもジェンダー差が解消されていないことがわかった。永藤清子、井上えり子、水島かな江、佐々木和子、清瀬尚子、朴木佳緒留、173—186。</p>
<p>3 まちづくりにおける小売業の役割に関する一考察—阪神淡路大震災時の事例から—</p> <p>(査読あり)</p>	<p>単</p>	<p>平成13年1月</p>	<p>和歌山大学大学院経済学研究科 市場環境専攻 修士論文</p>	<p>阪神淡路大震災後の地域の復興とくに生活復興に対して、小売業が地域住民といかに協同し早期復興に貢献できるかを考察した。兵庫県および神戸市の統計指数、スーパーマーケットの営業指数、まちづくり協議会のアンケート等から地域経済の復興の現状を探った。ハード面の復興が先行する中において、地域に根ざす小売業がソフト面でも地域住民との真の協同を目指すべきであること</p>

<p>4 大正期から昭和戦前期における成尾イチゴの変遷</p> <p>(査読あり)</p>	<p>共</p>	<p>平成 21 年 1 月</p>	<p>日本家政学会誌、 vol.60、no.4</p>	<p>を提言した。</p> <p>西宮市鳴尾地域におけるイチゴの沿革や栽培されていた品種などについて文献調査した。大正から昭和初期にかけて西宮市鳴尾地域では、農家の副業としてイチゴ栽培が盛んで生産量も多く、周辺住民にとっても季節に欠かせない食材であった。今後、イチゴの品種を特定して栽培すること、ジャムなどの加工品や大正時代からのイチゴの食べ方の文献調査の研究をすすめていきたい。新宅賀洋、原田理恵、<u>永藤清子</u>。</p>
<p>11 成瀬仁蔵の女子教育思想—「婦女子の職務」から</p>	<p>単</p>	<p>令和 2 年 3 月</p>	<p>甲子園短期大学紀要 No.38 (2020)</p>	<p>明治期の学制発布時は、小学校において男女共学の教育が目ざされていたが、その後の改正教育令によって男女別学が制度化された。成瀬仁蔵は、そのような時代に在って自分の理想とする女子大学校を創設した。本稿では、「婦女子の職務」に見られる成瀬の女子教育思想の原点を探った。</p> <p>23-27。</p>
<p>成瀬仁蔵の女子教育思想—女子教育と家政学の構想</p>	<p>単</p>	<p>令和 3 年 3 月</p>	<p>甲子園短期大学紀要 No.39 (2021)</p>	<p>成瀬仁蔵は、明治期における日本の女子高等普通教育は知育を軽視して実用教育に重きをおきすぎおり、そのために女子の知力・学識が不完全だと批判した。彼は、女子高等普通教育の修業年限を長くすること、その後3年間の大学設置を検討した。その一つとして家政学部の設置を提案し、国力発展の基礎となる家庭生活の向上を期待した。1 - 6。</p>
<p>(その他) なし</p>				

